

海外安全対策情報（2016年1月～3月）

在サンクトペテルブルク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

サンクトペテルブルク市及びレニングラード州の社会・治安情勢は、ロシア国内全体から見ても比較的安定しています。2月のネムツォフ野党指導者1周年追悼デモが、最近では比較的大規模でしたが、平穩に終了しています。欧米の経済制裁に加え、原油安、ルーブル安やインフレ進行等の経済的要因が市民生活にも影響を及ぼしているとの報もありますが、市民が生活苦を訴えるようなデモや集会は発生していません。市内で様々な意見を表明するデモや集会が組織されることもありますが、いずれも小規模です。しかし、ウクライナ人女性軍人拘束問題等のウクライナ関連集会や「パナマ文書」関連の反プーチン大統領集会といったデモ、さらにはLGBTの社会運動などにおいて、愛国主義者や保守主義者等が集会参加者に対して暴力行為等に及び、時折拘束者もでています。それら状況に遭遇した場合、巻き込まれないよう注意してください。

また、ナショナリズムの高揚を背景に、異民族排斥主義的な風潮も一部に見られます。犯罪の対象は、主に中央アジアや北コーカサス等の出身者ですが、邦人の皆様も引き続き警戒が必要です。

ISILは、昨年9月、ロシアによるシリアでの空爆に対する報復としてロシア国内で近くテロ攻撃を行う旨のビデオ声明を公開しています。今年2月には、ISIL関係者と目される者らが、サンクトペテルブルク市を含むロシア国内複数都市で爆弾テロを計画していたとして、エカテリンブルク市において拘束されています。また3月には、コーカサスのISIL関係者がロシア国内のISIL共鳴者に対しテロ攻撃を呼びかけるビデオをSNS上に投稿しています。近年、世界の様々な地域でイスラム過激派組織やそれらに影響を受けた者によるテロ事件が発生しているところ、今後、当地においてもテロ事件が発生する可能性も排除されるものではありません。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 一般犯罪情勢（別添「安全対策上の参考事件(平成28年1月～3月)」参照）

サンクトペテルブルク市内中心部は世界遺産に指定され、外国人観光客が多く訪れることから、年間を通し観光客を狙ったスリ・置引き・強盗等が発生しています（別添97番以降）。これから観光シーズンを迎え、公共交通機関内、有名観光地やネフスキー大通り等で被害の増加が予想されますので、邦人の皆様もご注意ください。特に、近年、路上歩行時、公共交通機関への乗車及び降車時、ショッピングモールや

各種商業施設からの出入時等に、複数人に取り囲まれて貴重品類を盗まれたり、強奪される被害に邦人が遭う事例もあり注意が必要です。

被害に共通する注意点として、犯人は、貴重品類の出し入れ時に収納場所を確認したり、明らかに貴重品がある場所に狙いを定めて、集団で身動きを封じたり、隙を窺うか注意を逸らせて犯行に及んでいるようです。

(2) 一般犯罪統計

国家統計庁の発表によれば、今年1月から3月までのサンクトペテルブルク市及びレニングラード州における犯罪認知総件数は13,623件（前年同期比104.1%）で、内訳は以下のとおりです（注：括弧内は前年同期比）。

殺人及び同未遂	58件（126.1%）
重度傷害	129件（84.9%）
強姦及び同未遂	16件（106.7%）
強盗	157件（89.7%）
略奪	643件（117.3%）
窃盗	4,874件（103.8%）
詐欺	717件（123.6%）
粗暴行為	19件（73.1%）
薬物の違法流通	3,369件（96.1%）

(3) 邦人被害事件

今期、当館が認知した邦人被害事件はありませんでした。一般犯罪以外の事案は、深夜飲食店にて泥酔しクレジットカード払い請求に複数回署名させられたぼったくり事案、交通違反罰金を警察官に直接交付した官憲の不正事案を認知しています。

その他、当地ではないですが国内の有名観光地において、着ぐるみと一緒に写真を撮られ金銭を要求された事案の情報も寄せられ、今後当地での発生も考えられます。本件のように、一見無料を装いつつ金銭を要求される事例としては、観光地に設置された撮影用の顔出し看板、路上や飲食店等での物品配布などがあり、よく確認する必要があります。

また、ネフスキー大通りを中心に、バス停や各種飲食店を巡回しているスリ犯罪者集団の目撃情報もありますのでご注意ください。

(4) 邦人以外の被害事案（別添「安全対策上の参考事件(平成28年1月～3月)」参照）

刃物や銃器を利用した強盗事件が、昼夜時間帯を問わず市内中心部の一般的な商店等においても発生していることから、これら事件に遭遇する可能性も排除されません。刃物や銃器等の武器の押収も日常的に報じられ、犯人に抵抗して死傷する事件もあることから、争い事を含め何らかの事件に遭遇した際には、深追いや抵抗等は危険ですので絶対にしないでください。

3 テロ・爆発事件発生状況（別添「安全対策上の参考事件(平成28年1月～3月)」参照）

2月15日、市内中心部の複合商業施設「ガレリア」店内のゴミ箱に訓練用手榴弾が投げ込まれ爆発する事件（別添96番）が発生し、地方在住の未成年が逮捕されました。昨年12月にも、被害者が重体となる愉快犯による路上爆弾爆発事件が発生しており、注意が必要です。

また、依然として、市内全域において、ショッピングセンター等の各種商業施設、公共交通機関、学校等の各種公共施設、集合住宅等に対し爆発物に関する虚偽通報事件が発生している上、不審物に市民が敏感になっていることもあって通報が相次ぎ、長時間の治安機関による検索で市民の生活にも影響が及んでいますのでご注意ください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況（別添「安全対策上の参考事件(平成28年1月～3月)」参照）

今期、邦人を対象とした誘拐事件は認知していません。なお、地元富裕層を対象とした身の代金目的略取や監禁事件が発生しています（別添2番から7番）。

この種事件の防犯対策としては、住居の警備対策をはじめ、出勤・帰宅時を含む移動時の安全対策を確立することが最も重要であり、安全のための三原則「目立たない」「行動をパターン化しない」「用心を怠らない」を徹底し、隙を見せないことが肝要です。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

今期、日本企業の安全に関わる諸問題は認知していません。

なお、4月から9月にかけて、日本では伊勢志摩サミットや関連会合が開催されることから、海外の日本人、日本権益がテロの標的となるおそれもあります。については、従来以上に安全に注意され、外務省が発出する海外安全情報及び報道等により、最新の治安・テロ情勢の入手に努めるなどの予防措置を心がけ、万が一の時には状況に応じた適切な対策を講じ被害を少しでも減らせるよう常に危機管理意識を持つよう努めてください。